

## インターバンクの声（2016年12月6日）

イタリアの憲法改正の是非を問う国民投票は反対派の勝利となり、昨日の東京市場は朝からユーロ売りとりスク回避による円買いが進み、英国の欧州連合（EU）離脱やトランプ・ショックに続く大荒れの相場展開になりそうな気配もあった。ただ、レンツィ首相が提唱した憲法改正案の否決は予想通りで、市場は次第に円を売り戻す動きに戻った。ユーロも円が売り戻され始めた頃に買い戻す動きが見られたが、さすがにイタリアの政局が混乱する懸念が残されていることから、本格的な反発は欧州勢が参入するロンドン早朝まで持ち越された。円売りは113円台後半まで続いたが、いったん113円台前半まで調整が入り、その後、ロンドン、ニューヨーク市場では米長期金利の上昇と米サプライ管理協会（ISM）の11月非製造業景況指数が予想以上に強かったため、ドル円は114円70銭台まで上昇した。

10ヵ月ぶりの115円乗せの期待感もあったが、米金利が急速に低下し始めたことに米株価の上げ幅縮小も加わり、113円台前半まで円の買戻しが進んだ。ニューヨーク市場の終盤には米金利の低下も止まり、さすがに円の売り戻し調整も入っている。どうも暫くは113円台後半から114円台前半をコアにした相場が続きそうだ。

---

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。